

UNEP

世界環境デーにあわせ、「地球概況：氷と雪」を公表

6月5日は世界環境デーです。今年の国際極年にちなんで「氷が溶けるーホットな話題？」がテーマとなり、世界環境デー記念式典のホスト国、ノルウェーを初め、世界各地で様々な行事が行われました。

このテーマにあわせて、UNEPから「地球概況 (Global Outlook)：氷と雪」が公表されました。これはUNEPと約70名の専門家が作成したもので、積雪や氷河の減少により、将来、世界人口の約4割の人々が影響を受けると予測しています。また、シベリアなどの永久凍土が溶け、水域が拡大することで、強力な温室効果ガスであるメタンが大量に放出されるおそれがあるといえます。さらに雪や海水の減少により、太陽の熱が吸収されやすくなり、温暖化が加速するといった問題も指摘されています。

UNEP

10億本植樹キャンペーン、5カ月で目標達成！

気候変動対策として、世界中で10億本の植樹を行う「10億本植樹キャンペーン」は、5月22日、セネガルが2000万本の植樹を約束したことで、予定より約7カ月も早い5カ月で目標を達成しました。

キャンペーンは、2004年のノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんの運動からヒントを得てスタート。マータイさんやモナコのアルベール王子の後援を得て実施されました。

主催者のグリーンベルト運動や国際アグロフォレストリー研究センターなどの熱意に応え、5歳から80歳までの幅広い年齢層が参加。途上国から先進国まで、コミュニティや幼稚園、スカウト団、学校、大学、芸術家、市議会、民間企業、国家、NGOが植樹を行いました。

UNEPのシュタイナー事務局長は、「来年の国際生物多様性の日には、60億本の植樹が達成されるだろう」と述べました。

イギリス

新たな廃棄物削減戦略を公表

イギリスのミリバンド環境大臣は、5月24日、廃棄物削減のための新たな戦略「イングランド廃棄物戦略2007」を公表しました。戦略の主なポイントは以下のとおりです。

- 個人と企業に効果的なインセンティブを付与し、家庭ゴミのリサイクル・コンポスト化率を2010年までに40%、2020年までに50%とする。
- 包装の最小化や容器のリサイクル率を引き上げる。
- 家庭ゴミの排出量を、2020年までに、2000年レベルから45%削減 (2220万トン→1220万トンへ) する。
- ダイレクトメールを削減する。
- 使い捨ての無料レジ袋の廃止に向け、小売業界と協働する。
- 公共エリアでもリサイクルが浸透するよう、駅やショッピングセンターの管理者と連携し、年内に自主的行動規範を公表する。

今後、戦略の実施状況は、廃棄物戦略委員会が監視するそうです。

ドイツ

人気のシロクマ「クヌート」をテーマにした雑誌を発行

ドイツ連邦環境省は、6月1日、ベルリン動物園で人気者のシロクマ「クヌート」をテーマにした雑誌「no ice, no white bear」を発行しました。雑誌では、シロクマの生活や北極の生息地、世界中で起きている気候変動の影響、生物多様性保全の必要性などについて取り上げ、クヌートの育ての親であるDoerflin氏へのインタビューも掲載されています。

シロクマは、気候変動の影響を最も受けている生物の一つであることから、クヌートは、2008年5月にドイツで開催される生物多様性条約締約国会議のマスコットにもなっています。

アメリカ

クリーン自動車の優遇措置を提案

アメリカ環境保護庁 (EPA) は、各州向けに、燃費の良いクリーンな自動車が、HOVレーン (一定人数以上の乗車した車だけが走行できる車線) を走行できるようにする新たな基準を5月17日に提案しました。

この提案は、陸上交通長期予算法に基づくもので、環境やエネルギー安全保障の観点から優れた自動車の購入を促進することを目指しています。

汚染排出量については連邦基準がカリフォルニア州のLEVII基準を満たしていること、エネルギー効率については、代替燃料自動車、またはハイブリッド車であるといった基準に適合しなければなりません。

こうした基準を満たしていれば、一人しか乗車していない場合でも、HOVレーンを走行できるようになります。

編集協力：財団法人環境情報普及センター (EIC) 各ニュースの詳細は、「EICネット」の「海外ニュース」のホームページをご覧ください。アドレスは、http://www.eic.or.jp/です。